

おまけ

成人向け

私がスペインの大学に留学して1年ほど経過した頃、世界的なウィルスが蔓延し、街はロックダウン状態に入ってしまった。

さて...

私はシェアハウスに住んでいるのですが、この同居人1人同じ大学に通うヴィオラとカルロスとはとにかく自由人です。

ヴィオラは外の警備の目を掻い潜りマリファナ(大麻)を買いに行きカルロスは友達をこっそり呼んで日夜爆音で大騒ぎ...



マリファナをすて

そんな鬱屈とした日が続いていたある日のこと...同居人の1人のカルロスが私の部屋にやってきました。

「ヨシ子、最近元気ないよね。なんか嫌なことでもあった?」「別に。いつも通りだよ。」「そう? その割に顔が死んでるよ。」

...この人は自分達の行動が原因だということの自覚がまるでないようです。

能天気そうな彼の言動に腹の立った私はこれまでの不満をぶちまけてしまいました。

すると彼は本当に予想外だったのか目を丸くして驚いたふうでした。

「毎日毎日家中うるさくて勝手に外出されて私の心が休まる日がない所為じゃないかな。」

「えっ...マジで?」
俺一人であるのが寂しくてさちよっとでも楽しく居たいからってんで毎日騒いでたんだよ。

それで、ヨシ子にも言わないから納得してると思ってた...

なんでそんな大事なこと言ってくれないのさ?」

2人の遠慮のない行動に挟まれ私は帰国を選ばなかったことを少し後悔し、やや鬱状態に陥っていました...

「言わなくてもわかってくれるかと思って…」
「あつはは、ちょっとわかんないよ。」
「今後は伝えてほしいな。」

私はここで察する、という習慣が
日本特有のものであると改めて思い知りました。

「酒で騒いで鬱憤晴らしてたんだ。」
でもそれがヨシ子にストレスを
与えてたならごめん。極力控えるよ」

「うん、私も伝えなくてごめん。」

「うん、私も伝えなくてごめん。」

そんな時。

「ふう。それじゃあここで一発
俺たちエッチでもしようか」

「え!?!」

あまりに予想外な彼の切り出しに
一瞬間の中が真っ白になりました

「え、な、なに? 今なんて?」

「エッチしようかって訊いたんだよ。」

「ヨシ子が嫌ならやらないよ」

「えっ…あの、嫌…ではないけどあの」
「やだ私、なに言ってるの!」

その言葉を聞くや、彼はニッコリして
「ほんと? いいんだね?」

「んっ!」

彼のいたずらな唇が私の唇に重なりました。

「わ、私のファーストキス…」

「で、でも私、男の人と
付き合ったことがないから
何をすればいいかわからない…」

「そうなの? じゃあ俺に任せてよ。」

「(なんだろう…頭がふわふわする)」

…今まで彼を異性として見たことは
なかったはずなのですが
不思議なもので、嫌な気分では
ありませんでした。

私は彼の手つきに流されるまま、
彼に自分の身体を委ねました。

「あ、あの、こういう事は普通
恋人同士でするものじゃ…」

「日本ではそれが普通なの?」
俺たちは基本的に付き合う前に
体の相性を確かめるよ。
普通のことさ」

「(そ、そうなの!?)」

「それに。今はただ楽しむため
だけにやるんだ。気楽に行こう」

彼の舌が私の舌に絡まる。

彼はそう頷くと、一度おち○ちんを私の膣から全て抜き出すと

「お、お肉が……ずりずりって……
こすられる感じがして……」
「okay」

「んあああああああああ
ああッ!?」

「いよっと！」

もう一度、今度は勢いよく
私の中に挿入したのです！

でも大丈夫のはずだよ。
さっきいっぱいイッたし
充分準備はできてるから
力抜いてて。痛かったら言っ

「んうううううっっ……!!!」

最初に感じたものは破瓜の痛みよりも、圧迫感でした。

「わ、わかんないっ……
大きくて……っ何これっ……！」

彼は私の様子を伺いながら
ゆっくりと体重をかけながら
動き始めました。

痛みがなくなったぶん、今度はダイレクトに彼の大きなおち○ちんに圧迫される感覚を味わいます。

「大丈夫、今はちよつと苦しい
かもしれないけど……
何回もやってるうちに
気持ちよくなってくるからさっ」

「ふあああああつ！あ、あ、あつ、
な、なんでつ、あああつ！」

彼は私の様子を伺いながら
ゆっくりと、しかししつかり
私の腔内を掻き回します。

(セックス…これが…
セックスなのっ!!?)

「んんッ!？」

よほど私が苦しそうな顔を
していたのでしようか、
彼は動きながらも宥めるように
私にキスをしました。

するとどうでしょう、私の体が
一瞬で脱力状態になったのです。

「ふう…大丈夫ヨシ子?
初めてのエッチはどうだった？」

「んっ…正直…よくわかんない…」
「そっか。嫌な感じはした？」
「……………」

私がふるふると無言で頭を横に振ると
彼は嬉しそうに微笑みました。

麻薬を打たれたようにくらくらする
頭をふりじぼりながら
ぼんやりと部屋の天井を
見つめていたような気がします。

(少し痛くて苦しかったけど…
キスとか…手で愛撫されるのは
すごく気持ちよかったなあ…)

(あ…私…このまま…)

確かに…安心を感じました。
と同時に、私の膣が締まり…

「つくううっ!」
「んううううっ!」

このまま毎日エッチすれば
おち○ちんのことも少しは…
気持ちよく…感じてくるのかな…?

前戯の気持ちよさと
彼の太い二の腕に抱かれる安心感…

生まれてこの方感じたことのない
不思議で心地の良い感覚に、
これ以降、私は彼との体の関係が
続いてゆくことになったのでした……。

Flieger

描いた人: 紹 2023年2月19日発行

<http://whitecross.sakura.ne.jp/>
@Flieger39207963 (Twitter)
eririn810@gmail.com

●このペーパー本は成人向けなので未成年の購読は禁止です。
●本書本文のインターネットへのアップロードも禁止です。
●知り合いに無料で渡すための複製コピーはかまいませんが、その複製物を転売するのは犯罪なので禁止です。